

7. 陸産・淡水産貝類

《概要》

鳥取県産の陸産・淡水産貝類は現在約 200 種（亜種を含む）が確認されている（谷岡 浩氏，中島良典氏私信）。今回のレッドリストには，陸産貝類 28 種（前回 24 種），淡水産貝類 20 種（前回 20 種）の計 48 種（前回 44 種）が選定され，うち絶滅危惧種（I 類と II 類）は 14 種（前回 11 種）である。

前回版リスト（2012）以後，DNA の塩基配列を利用した分子系統解析が進み，分類がみなおされ所属する目，科，種の学名などに変更があったものが少なからずあった。これらはわかるかぎり新しいものに修正した。このような見直しの結果，前回のリスト掲載種のうち和名が変更になったものとしては次のものがある：ササノハガイ（前はトンガリササノハガイで掲載），ヨコハマシジラガイ（前はニセマツカサガイ），キタノタガイ（前はタガイ），カタドブガイ（前はフネドブガイ）。

今回まったく新たにリストに掲載された種は次の 4 種である：ダイオウゴマガイ，ナガナタネガイ，サンインコベソマイマイ，セトウチマイマイ。

陸産貝類の選定種は，生息地が局限されている種がほとんどである。とりわけクビレイトウムシオイガイとヒョットコイトウムシオイガイは，鳥取県内で前者は 1 カ所，後者は近接する 2 カ所が既知の生息地のすべてという鳥取県固有亜種（両者をあわせると鳥取県固有種）である。かわった殻形が特徴の稀種であり，採集圧が心配される。

淡水産貝類は，圃場整備や改修工事，水路の不十分な管理，一部湖沼の汽水化などによる生息環境の悪化が著しい。鳥取県の特定希少野生動植物であったカラスガイは，汽水化事業が進められ湖山池では絶滅した（鶴崎 2013, 2020；尹ら 2015）。私の知る限り，これは行政が自らおこなった事業で地元の希少種を絶滅させた全国唯一の例である。カラスガイはその後，鳥取市の多鯰ケ池でも生息が確認されているが（福本・谷岡 2013）当地では外来魚の蔓延のためにカラスガイ幼生が寄主として必要とする在来魚種がいなくなっており，存続が難しい状況が続いている。これとは別に，湖山池汽水化後に個人所有の 2 カ所の小池で残存個体が見つかり人工繁殖が試みられている（宮本ら 2015）。これが野生個体群の復活に結びつくという見直しはなく，次回あるいは次々回の見直し時には鳥取県から「絶滅」という判定になりかねない。行政はこれを教訓にして二度と繰り返さないよう対策を施すべきである。

湖山池にはカラスガイ以外にもレッドリスト掲載の淡水貝は 8 種いたが，これらもヤマトシジミをのぞき絶滅した（湖山池ではヤマトシジミは他所産のものが放流されており当地の集団は保護すべき種には該当しない）。このよ

うな事情もあり，イシガイ類については他にもランクの引き上げが必要とみられる種がいくつかあったが，今回は時間切れでランクについては前回のままとした。

今回の陸産・淡水産貝類の選定・執筆については前回までの協力者の多くがご高齢その他の理由で辞退されたため作業が難航した。急なお願いにもかかわらず，今回，多数の種の執筆を引き受けて下さり，分類や学名についても多くのご教示をいただいた高田良二氏をはじめ今回ご協力下さった皆様に厚く御礼申し上げる。今回辞退された方々にも諸種のご援助をいただいた。これまでのご支援に深謝である。

（鶴崎展巨）

■引用文献

- 福本一彦・谷岡 浩（2013）鳥取県多鯰ケ池におけるイシガイ類の生息状況．山陰自然史研究，9: 1-5.
- 鶴崎展巨（2013）NEWS ハイライト．鳥取・湖を強引に汽水化．希少種も危機に．自然保護，535: 22.
- 鶴崎展巨（2020b）杜撰・非科学的・悪質な行政が招いた最悪の自然破壊—湖山池汽水化—．pp. 203-207. In: 鳥取県・鳥取市（汽水化に伴う湖山池の環境等の変化に関する調査報告書，213 pp.
- 宮本 康・福本一彦・畠山恵介・森 昭寛・前田晃宏・近藤高貴（2015）鳥取県における特定希少野生動物カラスガイ *Cristaria plicata* 個体群の現状：幼生と宿主魚類の關係に着目して．保全生態学研究，20: 59-69.
- 尹 振国・岩本真菜・鶴崎展巨（2015）塩分導入による湖山池のトンボ群集の崩壊．山陰自然史研究，11: 15-32.

イシマキガイ アマオブネガイ目アマオブネ科

Clithon retropictum (Martens, 1878)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



岸辺の石上のイシマキガイ (右個体は殻頂が欠けている)。
鳥取市南隈千代川鳥取大橋下 2021.9.24 / 撮影：鶴崎展巨

■**選定理由**：県下での生息水域が限られ、河川改修や浚渫などで、生息地が消滅する可能性がある。

■**特徴**：殻高は約 20 mm、楕円形で殻口側はやや平らとなる。殻口は半月形で大きく、殻径のほぼ半分を占める。暗緑色の殻には三角形の小斑点があり、蓋は石灰質で半円形。成貝では殻頂が欠けていることが多い。両側回遊 (幼生は降下) で河川河口の汽水域が主生息域だが、淡水域にも生息する。千代川では八千代橋の秋里潮止堰 (1961 年完成) を越えて上流は古くは袋河原まで、現在も源太橋付近まで記録がある。河底の石や沈水物に付着し、石上で交尾・産卵する。年中交尾するが 3-7 月と、10-11 月に多い。上流ほど大型個体が多い。

■**分布** 県内：鳥取市 (細川, 千代川, 湖山川, 河内川), 湯梨浜町 (天神川, 東郷池), 北栄町 (天神川), 琴浦町 (勝田川), 米子市 (日野川)。県外：本州中部以南; 中国南部。

■**保護上の留意点**：転石の存在が生息量に強く影響する。護岸はコンクリートよりも石組み護岸が望ましい。

■**特記事項**：2012 年の汽水化事業後、本種は湖山池にも侵入した。

■**文献**：40, 66, 84, 85, 86.

執筆者：鶴崎展巨

アツブタガイ 原始紐舌目ヤマタニシ科

Cyclotus (Procyclus) campanulatus Martens, 1865

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



石坂元氏コレクション 岡山県新見市 1973.10.14 採集
鳥取県立博物館所蔵 / 撮影：一澤 圭

■**選定理由**：本種は西日本に広く分布するが県下における生息地は西部に偏り、琴浦町以東での発見はない。個体数も他の地域に比較して少ない。

■**特徴**：殻高約 8 mm、殻径約 15 mm。殻は螺塔の低い円錐形、各螺層は管状で丸く良く膨らみ縫合の括れは強い。殻表は茶色～焦褐色の鈍い光沢のある殻皮で覆われ比較的滑らか。臍孔は広く深い。殻口は円形に近く外唇は厚くなり緩く反転する。殻蓋は分厚く石灰質で多旋の円盤状。和名はこの殻蓋の特徴に由来する。軟体部は灰色～黒褐色、触角は細長く眼点は触角の根元に位置する。雌雄異体。社寺林や丘陵地～山間部にかけての自然林、標高 500 m までの林床に生息する。

■**分布** 県内：琴浦町, 大山町, 中山町, 米子市, 伯耆町, 日野町。県外：本州 (群馬県・埼玉県以西), 四国, 九州, 屋久島, 種子島。

■**保護上の留意点**：生息数が激減している場所もあり、生息地の自然林や社叢が適正に保全されることが重要。

■**文献**：1, 2, 14, 29, 39.

執筆者：高田良二

ミヤコムシオイガイ 原始紐舌目ムシオイガイ科

Metalycaeus hirasei (Pilsbry, 1900)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



谷岡浩氏コレクション 八頭町落岩 2004.8.28
鳥取県立博物館所蔵 / 撮影：一澤 圭

■**選定理由**：県内 10 数カ所で確認されているが、局所的で個体数も少ない。

■**特徴**：殻高約 2 mm、殻径約 4 mm。殻は平巻形、各螺層は丸くよく膨らみ縫合は深く括れる。胎殻は半球状にやや突出。殻表全体には細かな成長縦肋が密にある。殻口は円形で成貝は厚く外唇が外側に反転する。殻口前部の螺管はやや細く狭まり括れとなる。この括れた部位手前の縫合近くには虫様管という呼吸器官があり、これが幼虫を背負っているように見えるため「ムシオイ」と名づけられた。殻蓋は革質で茶褐色、蓋の表面は汚泥などを付着させるため分厚く黒褐色に見える。広く浅い臍孔がある。軟体部は乳白色、触角はやや短く眼点は黒褐色で触角の根元に位置する。雌雄異体。丘陵地～山間部にかけての雑木林、標高 500 m までの林床に生息。

■**分布** 県内：鳥取市国府町, 八頭町, 琴浦町, 大山町, 米子市, 伯耆町, 江府町, 南部町。県外：本州 (三重県・京都府以西～島根県)。

■**保護上の留意点**：生息基盤として落ち葉の堆積や適度な湿度を必要とするため、開発による環境変化の影響を受けやすい。生息地の社寺林や周辺自然林の保全されることが重要。

■**文献**：1, 2, 14, 32, 79.

執筆者：高田良二

クビレイトウムシオイガイ 原始紐舌目ムシオイガイ科
Dicharax (?) nakashimai (Minato, 1987)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧I類 (CR+EN)



撮影：矢野重文

■**選定理由**：タイプ産地以外のどこからも記録がなく、個体数もきわめて少ない。鳥取県固有種・固有亜種。

■**特徴**：貝殻は小型（殻経 3.6–3.9 mm），低円錐形，背面観では卵形で，臍孔が開く。螺層は 4.5 層。体層の 2/3 の部位が著しくくびれ，それに続く螺管は初めから下降するが，すぐ上昇し，さらに再び急に下降してついに底面に向かって殻口に至る。くびれた部分の直後，螺管の底面は強く突き出して膨れる。底唇の背後は深い溝状になる。呼吸管は多少細長い。

■**分布** 県内：三朝町鉛山（タイプ産地）。県外：なし。

■**保護上の留意点**：本亜種はスギ植林地の斜面の林床のスギ落ち葉層や小石が混じる腐食土の中に生息するが，生息数は少ない上に，生息地域の面積もきわめて狭い。タイプ産地は将来的にはスギ等の伐採による環境の改変も予想されるので，何らかの保護対策が望まれる。

■**文献**：48, 50.

執筆：湊 宏

ヒョットコイトウムシオイガイ 原始紐舌目ムシオイガイ科
Dicharax (?) nakashimai ditacaeus (Minato & Yano, 2000)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧I類 (CR+EN)



八頭町落岩 1999. 1. 10 / 撮影：増田 修

■**選定理由**：生息地域は八頭町の 2 カ所しか知られていない。またそれらの地域では個体数も非常に少ない。採集圧とイノシシによる林床の攪乱によって生息環境が悪化して絶滅が危惧されている。鳥取県固有亜種。

■**特徴**：貝殻は小型（殻経 3.7–4.6 mm），低平な円錐形，淡黄褐色で半透明，背面観では卵形。螺層は 4.5 層。呼吸管は長さ約 1 mm。臍孔は体層の底螺層の張り出しに覆われ，ほとんど閉じられて小さいこと，頸部が伸長していることが本亜種の特徴（原名亜種からの識別ポイント）である。

■**分布** 県内：八頭町落岩（タイプ産地），上津黒。県外：なし。

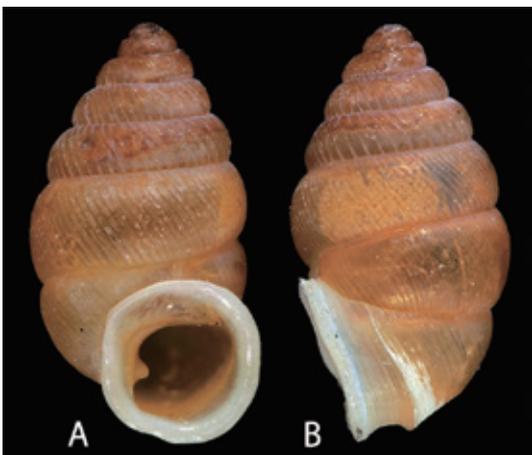
■**保護上の留意点**：本亜種の生息地は比較的湿った落ち葉堆積中であるが，イノシシの侵入による林床の攪乱が顕著であるから，その対策を考えることと，乱獲防止と生息する自然林の保護がきわめて重要。

■**文献**：51, 52, 53, 58, 68.

執筆：湊 宏

ダイオウゴマガイ 原始紐舌目ゴマガイ科
Diplommatina (Sinica) nakashimai Minato, 2015

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：—



ダイオウゴマガイのホロタイプ。原記載 (Minato 2015) の図 1 より

■**選定理由**：本種は日本産ゴマガイ科貝類の中では，殻長が最も大きい種類である。貝殻に腔襞を欠くことで，本科の中では他に比較される種類がない。鳥取県，島根県，岡山県に稀産する。

■**特徴**：殻長は 4.5 mm，殻径 2.2 mm。右巻きで淡黄白色からオレンジ色でさなぎ形の，塔状で細くなる。螺層には板状の縦肋が規則的に配されている。殻口縁は白色，反曲し，第二口縁が殻口背面にある。臍孔は閉じ，貝殻内に腔襞欠ける。

■**分布** 県内：タイプ産地は鳥取県日野町舟地。倉吉市（3 カ所）にも分布する。県外：島根県松江市，雲南市，飯南町（1 カ所），岡山県真庭市（3 カ所）。

■**保護上の留意点**：本種に比較されるのはオオゴマガイである，小型であること，短い腔襞があることで識別される。オオゴマガイと本種はしばしば混生していることがある。

■**文献**：54.

執筆：湊 宏

オオゴマガイ 原始紐舌目ゴマガイ科 *Diplommatina (Sinica) collarifera hirasei* Pilsbry, 1909

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



撮影：増田 修

■**選定理由**：本種は滋賀県を中心に生息するイブキゴマガイ *Diplommatina (S.) collarifera* Schmacker & Boettger, 1890 の亜種で、おもに山陰北西部に分布するが、局所的でかつ個体数も少ない。また、鳥取県東部に生息する別亜種のオオウエゴマガイ *Diplommatina (S.) collarifera tenuiplica* Pilsbry, 1900 との移行帯となる重要な種である。

■**特徴**：殻高約 4 mm, 殻径約 2.2 mm。殻は螺塔の高いゴマ粒形、縫合部は括れ各螺層は段状になる。殻底は丸い。殻表は全面に斜位の細縦肋彫刻が密に入る。殻口は円く第一口唇と第二口唇を備える 2 重構造、外唇はラッパ状に開く。殻色は薄い褐色～黄土色。軟体部は透明感のある乳白色で眼点は黒褐色。雌雄異体。本種は体層の殻口内唇上部付近に一文字型の短い筋状彫刻（腔襞）があるため他種と判別できる。丘陵地～標高 500 m の山間部にかけて、自然林のがれ場など湿潤環境、林床に生息する。

■**分布** 県内：鳥取県西部～三朝町。県外：本州（岡山県、島根県）。

■**保護上の留意点**：落葉の堆積や適度な湿度を必要とするため、開発の影響を受けやすい。生息地の社寺林や周辺自然林の保全が重要。

■**文献**：1, 14, 32, 55, 65.

執筆：高田良二

アズキガイ 原始紐舌目アズキガイ科 *Pupinella (Pupinopsis) rufa* (A. Adams & Sowerby II, 1864)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



撮影：谷岡 浩

■**選定理由**：本州中部以西に広く分布するが、山陰地方では生息地が少なく個体数も他の地域と比較して少ない。県下の生息地は 4 カ所のみで、環境の変化により消滅の可能性がある。

■**特徴**：殻高約 12 mm, 殻径約 6 mm。殻は螺塔の高い円錐形。螺管は膨れ縫合の括れは弱い。殻表は赤紫褐色で鈍い絹状の艶がある。この殻色やサイズ、形状からアズキ豆を連想させる。殻口は円形に開き、前溝と後溝が深く切れ込む。殻口外唇は厚くなり反転する。殻底は丸く臍孔は開かない。円く多旋型の薄い蓋がある。軟体部は黒褐色。触角はやや長い。雌雄異体。社寺林や廃屋周辺、平地～山間部にかけての雑木林、がれ場や木のウロ、朽木など標高 500 m までの林床に生息する。

■**分布** 県内：湯梨浜町（旧東郷町）、三朝町、琴浦町、日野町。県外：本州（埼玉県・静岡県以西）、四国、九州、屋久島、種子島。

■**保護上の留意点**：湯梨浜町では生息地の社叢の環境変化と採集圧によりほぼ絶滅状態にある、同地はもとより他の生息地共に環境の保全が必要。

■**文献**：2, 14, 29, 39, 72.

執筆：高田良二

マルタニシ 原始紐舌目タニシ科 *Bellamya (Cipangopaludina) chinensis laeta* (Martens, 1860)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



谷岡浩氏コレクション 鳥取市玉津醍醐池 2013.11.9 採集
鳥取県立博物館所蔵／撮影：一澤 圭

■**選定理由**：県下では 6 カ所の生息水域が確認されているが、水田整備など水辺環境の改変により、全国的に生息地が減少している。

■**特徴**：殻高約 45 mm, 殻径約 40 mm。殻は底部の丸い円錐形。螺管は太く各螺層は良く膨らみ縫合は深く括れる。殻表は全面が殻皮に覆われ平滑でやや光沢がある。殻口は円い D 型で広く開口する。外唇は反転せず裁断状で成貝はやや肥厚する。臍孔は斜位に隙間状に狭く開く。殻色は暗緑褐色、殻口縁は漆黒色に染まる。殻蓋は殻口を隙間なく閉じる。殻色で革質。軟体部は灰褐色、細く長い触角を持つ。眼点は黒褐色で触角の根元に位置する。雌雄異体、卵胎性。水田や池沼、溜め池などの止水系の泥底に生息する。

■**分布** 県内：鳥取市、岩美町、智頭町、湯梨浜町。県外：北海道、本州、四国、九州、沖縄県。

■**保護上の留意点**：本種は水深の浅い止水系の水田等の環境に生息する種類のため、農薬などによる水質汚染や圃場の減少、水田耕作法の変化により著しく減少している。生息地の水質の改善や休耕田を利用した湿地環境の構築など保全管理が必要。

■**文献**：32, 35, 39, 40, 67.

執筆：高田良二

オオタニシ 原始紐舌目タニシ科

Bellamyia (Cipangopaludina) japonica (Martens, 1860)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



標本 鳥取市生山大池 1980.12.3 採集
鳥取県立博物館所蔵／撮影：一澤 圭

■**選定理由**：県下で確認された生息水域は9カ所。生息地は閉鎖的環境であるため、水質や干ばつ等の水環境の悪化で消滅する危険性がある。

■**特徴**：殻高約50 mm，殻径約40 mm。殻は螺塔の高い円錐形。縫合は深く括れ丸底，体層は太く各螺層はよく膨らむ。体層の周縁と肩部には角があり，全体的に角張った感がある。殻表は全面が殻皮に覆われ，表面には微細な打痕による窪みが密に現れる。殻口は円いD型で広大，外唇は反転しない。臍孔は斜位に隙間状に狭く開く。殻色は黒褐色～暗緑褐色，殻蓋は角の円いD型，薄い革質で茶褐色～飴色。軟体部は黄土色～灰褐色，触角は長く眼点は黒褐色で触角の根元に位置する。雌雄異体，卵胎性。池沼や淡水湖，流れの穏やかな小川や水路，冬場に凍結しない水田などの砂泥底に生息。

■**分布** 県内：鳥取市，岩美町，智頭町，湯梨浜町。 県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：池や沼など閉鎖的な水域に生息するため，水質汚染など環境の変化で減少または消滅の危険性がある。水質調査や池沼環境の保全が必要。鳥取市湖山池では鳥取県と鳥取市による汽水化事業で絶滅した。

■**文献**：21, 22, 35, 40, 67. 執筆者：高田良二

カワグチツボ タマキビ型新生腹足目カワグチツボ科

Fluviocingula elegantula (A. Adams, 1861)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



有明海産／撮影：高田良二

■**選定理由**：現在，確認されている生息水域はわずか1カ所。生息地の汽水環境は減少傾向であるため，環境と共に生息水域の喫緊の保護が必要。

■**特徴**：殻高約5 mm，殻径約2 mm。殻は細長い円錐形。縫合は深く括れ，各螺層は丸く良く膨らむ。体層は狭く周縁は丸い。殻表は微細な螺肋があり全面が茶褐色の殻皮に覆われる。殻頂は腐食により消失した尻折れ状の個体が多い。殻口は楕円形で外唇は反転しない。臍孔は狭い隙間状で斜位に開く。殻色は茶褐色～黄土色，殻蓋は楕円形で薄質，淡褐色。軟体部は淡灰色で口吻と触角の先端周辺が濃色に染まる。触角は細長く眼点は黒褐色で触角の根元に位置する。雌雄異体。塩分がやや含まれる水辺や潟湖干潟など，河口汽水域の小石混じりの砂泥環境に生息する。現在は底質など整った汽水環境に限られるため稀産。

■**分布** 県内：米子市加茂川河口。 県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：移動能力が脆弱な種であるため，生息地の埋立改修や水質の汚染，上流からの土砂の流入などが深刻な影響を与えると懸念される。汽水環境の保全や生息数の把握などさらなる現状調査が必要。

■**文献**：14, 28, 32, 35, 39. 執筆者：高田良二

ミズゴマツボ タマキビ型新生腹足目ミズゴマツボ科

Stenothyra japonica Kuroda, 1962

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



撮影：谷岡 浩

■**選定理由**：分布範囲は広いが全国的に生息地の少ない種類。県下で確認されている生息地は1カ所のみ。生息地である汽水環境は河川改修や浚渫などにより減少傾向にあり，水質汚染により消滅の可能性もある。

■**特徴**：殻高約4 mm，殻径約2 mm。殻は微小な長卵形，縫合部はやや括れ各螺層は丸く膨らむ。体層は大きく膨らみ周縁角はない。殻表は微細な刻点状のディンプルが螺肋に沿って密に並ぶ。殻口は成貝になると内側にやや小さくなり開口部が狭まる。外唇は反転しない。小さく浅い臍孔が斜位に開く。殻色は淡褐色～黄土色，殻蓋は革質，淡褐色で円に近い楕円形。軟体部は淡い黄土色で口吻はやや長い。触角は細長く淡色と黒色の斑模様となる。眼点は小さく触角の根元に位置する。雌雄異体。淡水から塩水が混じる水辺や河口汽水域の細泥～砂泥上に生息する。

■**分布** 県内：岩美町。 県外：本州，四国，九州，沖縄県。

■**保護上の留意点**：生息地の河川感潮域に生育する湿生植物等の保護や，河底の堆積泥など浚渫事業の監視が必要である。

■**文献**：14, 28, 29, 39. 執筆者：高田良二

ヤマメタニシ タマキビ型新生腹足目イツマデガイ科

Blanfordia integra Pilsbry, 1924

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧I類 (CR+EN)



石坂元氏コレクション 新潟県糸魚川市親不知
鳥取県立博物館所蔵／撮影：一澤 圭

■**選定理由**：県下で確認されている生息地は2カ所のみで生息個体数も少ない。滝や沢など1年を通して飛沫のかかる湿潤環境が減少傾向であるため、喫緊の保護が必要。

■**特徴**：殻高約5 mm，殻径約3 mm。殻は小さく殻底の丸い尖った円錐形，縫合部は括れ各螺層は良く膨らむ。殻表は茶褐色～黄土色の殻皮を被り表面には鈍い艶がある。殻口は円～楕円形で外唇縁は緩く反転する。臍孔は小さく狭い。殻蓋は楕円形で扁平で薄い。軟体部は透明感のある淡灰色，触角は短く眼点は黒褐色でやや大きい。雌雄異体，稀産種。山の沢や滝の周辺など，適度な淡水の飛沫のかかる湿潤環境。山間部の落葉の下や礫の隙間などに生息する。

■**分布** 県内：大山町，若桜町。 県外：本州（秋田県以南～鳥取県）。

■**保護上の留意点**：移動能力が脆弱な種であるため，生息に適した湿潤環境が乾燥すると消滅の可能性がある。湿潤環境の保全や生息数の把握など更なる現状調査が必要。

■**文献**：14, 39, 45, 80.

執筆：高田良二

モノアラガイ 水棲目モノアラガイ科

Radix (Radix) japonica (Jay, 1857)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



谷岡浩氏コレクション 岩美町大谷 2004.7.9
鳥取県立博物館所蔵／撮影：一澤 圭

■**選定理由**：県下で確認されている生息水域は5カ所。おもな生息環境である小川や水路などは減少傾向であり，水質の悪化も懸念される。

■**特徴**：殻高約15 mm，殻径約8 mm。殻は螺塔の高い卵円錐形。殻頂は尖り縦長で殻底は丸い。体層は大成し殻口は広く開口する。成貝では殻口外唇が緩く反転する。殻はかなり薄質，殻色は淡い茶褐色～黄土色で薄質のため軟体部が透き通って見える。殻軸は弱く括れ，臍孔は閉じる。殻蓋は無い。軟体部は透明感のある薄茶色，触角はやや短く尖った二等辺三角形。眼点は黒褐色で触角の根元の前方に位置する。雌雄同体で卵性，肺呼吸をする。春に寒天質の卵塊を産む。溜め池や湖沼，淀んだ小川や水路など止水～半止水系の淡水に生息する。

■**分布** 県内：鳥取市，岩美町，八頭町，湯梨浜町。 県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：流れの緩やかな水田の側溝や用水路など，人の生活圏に近い水系に生息しているため，農業や生活排水による水質汚染により年々減少の傾向にある。止水や半止水系の水環境の保全が重要である。

■**文献**：16, 22, 38, 40.

執筆：高田良二

ヒラマキミズマイマイ 水棲目ヒラマキガイ科

Gyraulus spirillus (Gould, 1859)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：情報不足 (DD)



兵庫県吉川町産／撮影：増田 修

■**選定理由**：確認されている生息水域は2カ所。主生息環境である水田や用水路などは減少傾向で，水質悪化も懸念される。汚染に脆弱な稀少種。

■**特徴**：殻高約2 mm，殻径約6 mm。殻は扁平な円盤形，殻頂から体層部は窪み擬臍孔となる。螺管は幅広く，縫合のくびれは弱く浅い。周縁角は顕著でキール状に角張る。殻口外唇は前方に傾いた斜位の裁断状で肥厚反転しない。殻蓋は無い。殻色は茶褐色～黄土色。殻皮はやや粗く汚褐色。殻表には鈍い艶がある。軟体部は赤褐色，口吻は長く茶色の細長い触角をもつ，眼点は黒褐色で触角の根元に位置する。雌雄同体で卵性，肺呼吸をする。左巻種。溜め池や湖沼，圃田の水路など淀んだ環境，おもに止水系に生息する。

■**分布** 県内：鳥取市千代川，国府町袋川。 県外：北海道南部，本州，四国，九州，沖縄県。

■**保護上の留意点**：千代川，袋川ともにワンドや葦の茂みなどの止水域に生息しているため，護岸改修や浚渫などの影響を受けやすい。生息域の水環境の保全が必要。

■**文献**：14, 21, 22, 36, 40.

執筆：高田良二

ヒラマキガイモドキ 水棲目ヒラマキガイ科
Polypylis hemisphaerula (Benson, 1842)

鳥取県：情報不足 (DD)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



兵庫県加西市 / 撮影：増田 修

■**選定理由**：県下での生息水域は限られ、半止水系の小川や用水路などは減少傾向で、水質悪化も懸念される。環境の変化や汚染に脆弱な稀少種。

■**特徴**：殻高約 2.5 mm，殻径約 6 mm。殻は低い平巻形，殻頂から幼層部に掛けてすり鉢状に窪み擬臍孔となる。螺管は太く幅広で体層部は大成する。縫合のくびれは弱い。殻表は平滑で成長脈は細かく不明瞭，油状の強い光沢がある。殻口は U 字型，外唇は斜位の裁断状で肥厚反転しない。臍孔はやや広く擬臍孔とともに中央に窪む。殻蓋はない。殻色は黄土色～飴色。軟体部は赤みを帯びた褐色，茶色の長い触角をもつ，眼点は黒褐色で触角の根元にある。雌雄同体で卵性，肺呼吸。本種は平巻型で，殻頂側の擬臍孔の方が臍孔より窪んでいるため右巻きに見えるが，殻頂より殻口が左に位置する左巻きの種。淀んだ小川や水路など淡水の止水，半止水系に生息。

■**分布** 県内：鳥取市（千代川，国府町袋川），倉吉市（天神川，小鴨川），三朝町三徳川。県外：北海道南部，本州，四国，九州，沖縄県。

■**保護上の留意点**：河川や側溝，用水路の改修や護岸整備などは，生息環境に直接影響を与える。改修事業を行う際は工事方法に配慮，監理が必要。

■**文献**：14, 21, 22, 36, 40. 執筆者：高田良二

ナガオカモノアラガイ 柄眼目オカモノアラガイ科
Oxyloma hirasei (Pilsbry, 1901)

鳥取県：情報不足 (DD)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：増田 修

■**選定理由**：本種は水際の湿潤環境に生息するため，溜池や水田整備など水辺環境の改変により，全国的に減少傾向にある種。

■**特徴**：殻高約 15 mm，殻径約 7 mm。殻は細長い卵円錐形。螺塔は短くやや低い縫合は括れる。殻底は緩やか。体層は大成し殻口は広く開く。外唇は肥厚，反転しない。殻質はかなり薄く華奢。殻口は滴型で蓋はない。殻色は淡茶色～淡いベージュ色。殻軸は弱く捩れ臍孔は開かない。軟体部は透明感のある淡い小麦色，頭部には大触角 2 本とやや短い小触角 2 本があり，眼点は大触角の先端に位置する。雌雄同体で肺呼吸をする。殻の形状が淡水産のモノアラガイに似るが，本種は柄眼目で分類上はかなり離れた群に属する。川や池の近くなど水辺環境に生息し幼虫期のホタルの餌となる。溜め池や用水路，小川などの近くの草むら，池沼周辺域。

■**分布** 県内：岩美町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：水田や周辺用水路，側溝など人間の生活圏に近い水系に生息する種なので，人為的な環境の改変の影響を受けやすい。水環境の保全と生息状況の調査が必要。

■**文献**：2, 13, 23, 29, 65. 執筆者：高田良二

ナガタネガイ 柄眼目キバサナギガイ科
Columella edentula (Draparnaud, 1805)

鳥取県：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
環境省：—



米子市淀江町産 2018.1 / 撮影：中島良典

■**選定理由**：県内の生息地が限られ個体数もきわめて少ない。

■**特徴**：殻高 2.0 mm のきわめて微小な貝で円筒型。螺塔は高く殻頂は円い。殻底はふくらみ，狭い臍孔がある。体層周辺は円く，縫合はくびれる。殻は薄く，半透明で明るい茶褐色。殻表面は光沢があり，表面は平滑で弱い成長脈がある。殻口は軸唇から底唇にかけてわずかに反転，肥厚しない。落葉広葉樹に多少スギが混ざる環境やスギ林に落葉広葉樹が混ざり，林内に常緑の低木のある林床に生息する。

■**分布** 県内：米子市淀江町 7 カ所。日野郡江府町 6 カ所。三朝町 2 カ所，鳥取市佐治町 5 カ所。標高 30-900 m の里山から山間部にかけて生息し，三朝町と鳥取市佐治町では中国山地にかけて分布する。県外：北海道，本州，四国；ヨーロッパ，アジア，北米の北極圏内。

■**保護上の留意点**：スギ林や広葉樹林の保全管理。

■**文献**：18, 57, 61. 執筆者：中島良典

キセルガイモドキ 柄眼目キセルガイモドキ科

Mirus reinianus (Kobelt, 1875)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



撮影：谷岡 浩

■**選定理由**：西日本の日本海側での記録がかなり少ない種。県下ではとくに稀で生息地も限定されている。森林など環境の悪化により絶滅の恐れもある。

■**特徴**：殻高約 30 mm，殻径約 10 mm。殻は螺塔の高い弾丸形。多旋で各層縫合の括れは弱く殻底は丸い。殻表は細かな成長脈が密にあり、艶のない皺状の薄い殻皮を被る。殻口は楕円型，外唇はラッパ状に広く反転する。殻蓋はない。殻色は黄土色～淡褐色。軟体部は淡い小麦色，大触角はやや長い。雌雄同体。殻の細長い形状により左巻きのキセルガイ類に似るが，本科は右巻きの種である。丘陵地～山間部にかけての自然林，広葉樹の樹幹の低い場所や落ち葉の下，標高 500 m までの山林に生息する。

■**分布** 県内：東郷町，三朝町，琴浦町，日野町。 県外：北海道南部，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：自然環境が良好な丘陵地や山間部などの自然林に生息しているので，これら山林の保全が必要。

■**文献**：14, 29, 32, 56, 65.

執筆者：高田良二

フトキセルガイモドキ 柄眼目キセルガイモドキ科

Mirus japonicus (Möllendorff, 1885)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山 2018.5.12 / 撮影：鶴崎展巨

■**選定理由**：北海道南部から九州にかけて広く分布するが，棲処は局所的で個体数も限られている稀少な種類。

■**特徴**：殻高約 30 mm，殻径約 12 mm。殻は螺塔が高く中央が膨らんだ弾丸形，各螺層は太く縫合の括れは弱い。殻表は細かな成長脈が密にあり，茶褐色でやや厚く鈍い光沢をもつ殻皮がある。殻口は楕円型，外唇は肥厚しラッパ状に反転する。殻蓋はない。殻色は赤みを帯びた褐色～黄土色。軟体部は茶褐色，大触角の先端に黒い眼点がある。雌雄同体。丘陵地～山間部にかけての標高 1000 m までの自然林，活動期は広葉樹の樹幹の低い場所や岩の間などに生息する。

■**分布** 県内：鳥取市国府町，倉吉市，大山町。 県外：北海道南部，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：自然環境が良好な山間部の自然林に生息しているので，これら山林の保全が必要。

■**文献**：3, 32, 56, 65, 73.

執筆者：高田良二

クイロキセルガイモドキ 柄眼目キセルガイモドキ科

Mirus andersonianus (Möllendorff, 1885)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：谷岡 浩

■**選定理由**：全国的にも分布が限られている稀産種。県下でも少数のブナ林に生息が限定されている。

■**特徴**：殻高約 25 mm，殻径約 8 mm。殻は螺塔が尖った弾丸形，縫合の括れは弱く殻底は狭く丸い。殻口は楕円型，外唇は淡色で緩く反転する。殻蓋はない。殻表は細かな成長脈があり，表面は赤みを帯びた焦褐色の殻皮に覆われる。殻皮はやや厚く剥げやすい。殻色は艶のある褐色～濃栗色。軟体部は濃褐色で大触角はやや長い。雌雄同体。寒冷な環境を好みブナ林など自然環境の残る山間部～標高 2000 m までに生息。好樹上で活動期は 2-3 m までの樹幹に生息する。

■**分布** 県内：鳥取市，三朝町，琴浦町，大山町。 県外：北海道，本州（青森県以南～島根県・広島県）。分布の西限は広島県三段峡。

■**保護上の留意点**：活動期はおもにブナの樹幹に着生し生息しているので，ブナ原生林の保護が必要。

■**文献**：29, 32, 56, 65, 73.

執筆者：高田良二

オオギセル 柄眼目キセルガイ科

Megalophaedusa (Megalophaedusa) martensi (Martens, 1860)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



智頭町駒帰 2021.10.28 / 撮影：鈴木 武

■**選定理由**：県内における生息確認は数カ所にすぎない。しかも個体数は少ない。関東地方西部から中国地方東部まで分布するが、鳥取県はその分布西限域の集団として重要。

■**特徴**：貝殻は重厚で大型（殻高 36–45 mm，殻経 8.5–12 mm），紡錘形状。殻色は紫褐色～淡褐色と変異に富む。螺層は 10–11 層。体層の内部に腔襞が 5–7 個並ぶ。本種は世界最大のキセルガイ科貝類。別名はマルテンスギセル。卵生。

■**分布** 県内：鳥取市（国府町，用瀬町，青谷町，河原町），倉吉市，大山町，八頭町。県外：関東（西部），中部，近畿，中国（東部），四国（東部）。

■**保護上の留意点**：本種は森林下の落ち葉の堆積中や朽ち木の下面に生息するので，自然林の保護と環境保全が必要である。また，生息地では大型で目立つので，採集圧による乱獲を慎みたい。

■**文献**：23, 44, 49, 62.

執筆：湊 宏

モリヤギセル 柄眼目キセルガイ科

Stereophaedusa (Mesophaedusa) moriyai (Kuroda & Taki, 1944)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：増田 修

■**選定理由**：本県は本種の分布のほぼ最東端域にあるが，その生息地，個体数とも少ない。

■**特徴**：貝殻は中型から大型（殻高 27–33 mm，殻経 7–8 mm）で堅固。螺層は 11–12 層。九州（五島，壱岐を含む）と四国に分布する原名亜種（オキギセル *M. v. vasta*）とは，貝殻内部の腔襞の数が少ないことや生殖器の形態の違いで識別される。卵生。

■**分布** 県内：南部町，江府町，大山町，倉吉市，三朝町。県外：中国地方，四国（西部）。

■**保護上の留意点**：本亜種は森林内の倒木や朽ち木，落ち葉の堆積地に生息しているので，生息する自然林の保護・保全が必要。本県における生息地が少なく，しかもそこでの生息個体数が少ないので，乱獲を慎みたい。

■**文献**：31, 43, 49, 62.

執筆：湊 宏

ホソヒメギセル 柄眼目キセルガイ科

Megalophaedusa (Aulacophaedusa) gracilispira (Moellendorff, 1882)

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



撮影：増田 修

■**選定理由**：本県では生息地が比較的多く確認されているが，いずれの生息地も局所的・散在的である。自然林内の朽ち木中の腐った屑に生息するために環境の変化に弱い種群と考えられるとともに個体数が少ない。

■**特徴**：貝殻は小型（殻高 8–10 mm，殻経 2–2.4 mm），薄質，細長い紡錘形で淡褐色～淡黄白色。殻口の上板右側の 1 個の刻みがある。月状襞を欠き，上腔襞と下腔襞の間に 1–2 個の腔襞がある。下軸板は殻口縁には現れない。

■**分布** 県内：日野町，江府町，大山町，琴浦町，三朝町，鳥取市，八頭町。県外：近畿，中国，四国（東部）。

■**保護上の留意点**：本種は自然度の高い社叢林などの古木の根元などの樹洞，朽ちた木や腐った木の屑の中に生息するので，このような森林環境の保護・保全が必要である。

■**文献**：49, 62.

執筆：湊 宏

パツラマイマイ 柄眼目パツラマイマイ科

Discus pauper (Gould, 1859)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)



撮影：谷岡 浩

■**選定理由**：北方系の種で本州中部以西での分布は山岳地帯に限られ、生息地、個体数とも少ない。県下での生息は局所的で稀産であるため、環境の悪化で個体群が絶滅する危険がある。

■**特徴**：殻高約 3 mm，殻径約 8 mm。殻は螺塔の低い平巻形，螺管は細く多旋で縫合のくびれは弱い。周縁はやや角張る。殻口は丸い D 型で外唇は裁断状で肥厚反転しない。殻底には浅く広い臍孔がある。殻表にはやや強い成長脈が密に入りツヤ消状となる。殻色は黄土色～赤褐色。軟体部は黒褐色の単色で無地。触角はやや長い。本種は寒冷な地域を起源とする北方種で，南下に伴い垂高山帯などの寒冷な環境に好んで生息する。自然林の朽木の近くや広葉樹林帯の林床など標高 800 m 以上の山林。

■**分布** 県内：大山町，八頭町，倉吉市，若桜町春米，江府町・擬宝珠山山頂付近 1110 m。大山は本種の分布域の西限となる。県外：北海道，本州（青森県以南～鳥取県），四国（高知県）。

■**保護上の留意点**：春米，大山寺では神社境内に限られた樹木にのみ生息しており，境内の清掃等，人為的な環境変化に注意が必要。春米では絶滅の危険性がある。

■**文献**：3, 23, 29, 65, 74.

執筆者：高田良二

カサネシタラガイ 柄眼目シタラガイ科

Sitalina insignis (Pilsbry & Hirase, 1904)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



2010.4.18 / 撮影：中島良典

■**選定理由**：関東から九州にかけて分布域はやや広いが，生息地は限定され個体数もきわめて少ない種である。林床の乾燥等，環境の悪化で消滅する危険性がある。

■**特徴**：殻高約 2 mm，殻径約 2.2 mm。殻は殻底の丸い算盤玉形，螺塔はやや高く体層周縁部はよく角張る。本種の特徴である各縫合は鋭角に切れ込むように括れ，各螺層は「重ね」状となる。殻質は薄く殻口は反転肥厚しない。殻表は微細な螺状脈が数条あり鈍い光沢となる。臍孔は狭く浅い。殻色は透明感のある薄茶色。軟体部は茶褐色，大触角は太くやや長い。雌雄同体。局所分布の稀産種。自然林の落ち葉の下などの湿潤な環境に生息するが，生息範囲はかなり限られる。丘陵地～山間部にかけて，標高 300 m までの自然林の落ち葉の下などの湿潤な環境の林床に生息する。

■**分布** 県内：若桜町，日野町，南部町。県外：本州（栃木県・群馬県以西～鳥取県・岡山県），四国，九州。

■**保護上の留意点**：県内では 3 カ所の生息地が確認されているが，どこも局所分布であるため生息地の自然林や社叢の保全が必要。

■**文献**：2, 14, 29, 39, 65.

執筆者：高田良二

クリロベッコウマイマイ 柄眼目ベッコウマイマイ科

Japanochlams cerasina (Pilsbry, 1902)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：情報不足 (DD)



撮影：増田 修

■**選定理由**：北海道南部より広く分布する種であるが，西に行くほど生息地が減少し，本県が分布の西限となる。県下の生息地は僅か 1 カ所のみで，環境が変化すれば消滅の可能性がある。

■**特徴**：殻高約 5 mm，殻径約 8 mm。殻は螺層の多い算盤玉形，螺塔はやや低く殻底は丸い。各縫合のくびれは弱く周縁部は肩角があり緩く角張る。体層は大きく膨らむ。殻口は薄く裁断状で肥厚反転しない。殻表は平滑で油状の艶がある。殻底は滑らかで臍孔は閉じている。殻色は透明感のある濃栗色～飴色。軟体部は黒褐色で大触角は長く胴体はやや細い。丘陵地～山間部にかけて，自然林の落ち葉の下など沢などに接した湿潤な環境に生息，標高 1000 m までの林床に生息する。

■**分布** 県内：三朝町。県外：北海道南部，本州（青森県以南～鳥取県）。

■**保護上の留意点**：生息基盤として落ち葉の堆積や適度な湿度を必要とするため，開発による環境変化の影響を受けやすい。生息地の自然林の保全が必要。

■**文献**：2, 14, 29, 65.

執筆者：高田良二

ヤマコウラナメクジ 柄眼目ノコウラナメクジ科
Deroceras (Nipponolimax) monticola Yamaguchi & Habe, 1955

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
 環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：増田 修

- 選定理由**：全国的にも記録の少ない稀産種。県下での生息地は1カ所のみ。乾燥など林床変化により絶滅につながる脆弱種である。
- 特徴**：体長30 mm，幅約6 mm。軟体は寸胴の筒形で頭部は丸い。背面のやや前方の位置には楕板があり，薄く小さな爪状の殻板(コウラ)が内在している。軟体の色は焦褐色～青み係った黒褐色。大触角は身体に対してやや短く先端に眼点を備える。雌雄同体。亜高山帯など原生林の残る標高1000 m以上のブナ林の落ち葉の下や朽木の近くに生息する。
- 分布** 県内：大山町。県外：本州(青森県以西～山口県)。
- 保護上の留意点**：亜高山帯のブナの朽木や落葉内に生息する種なので，ブナ原生林の保護が必要。
- 文献**：2, 3, 29, 46, 74。

執筆者：高田良二

オオコウラナメクジ 柄眼目オオコウラナメクジ科
Nipponarion carinatus Yamaguchi & Habe, 1955

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
 環境省：準絶滅危惧 (NT)



撮影：増田 修

- 選定理由**：分布域の広い種であるが，いずれの生息地も個体数が少なく稀産である。
- 特徴**：体長40 mm，幅約8 mm。軟体は寸胴の筒形で頭部は丸く，大触角は身体に対してやや太く短い。背面の前方の位置には硬い組織で出来た楕板があり，その中には薄い爪状の楕円形をした殻板(コウラ)が内在している。軟体の色は頭部や触角付近はやや黒く，胴体は淡褐色～灰褐色で焦茶の斑点模様が現われる個体もある。雌雄同体。地上棲で雨季には活発に這い廻る習性がある。里山～高山帯にかけての広葉樹林帯，朽木の近くや広葉樹の洞の中などに生息する。
- 分布** 県内：鳥取市，三朝町，大山町。タイプ産地は鳥取市久松山。県外：本州(山形県・福島県以南～山口県)，四国，九州。
- 保護上の留意点**：県下では複数の生息地が確認されているが，局所分布であるため生息地の自然林や社叢の保全が必要。
- 文献**：2, 23, 29, 42, 46, 74。

執筆者：高田良二

コベソマイマイ 柄眼目ナンバンマイマイ科
Satsuma (Satsuma) myomphala (Martens, 1865)

鳥取県：情報不足 (DD)
 環境省：—



撮影：谷岡 浩

- 選定理由**：本県では稀産。生息状況はさらに調査が必要。
- 特徴**：殻高約30 mm，殻径約40 mm。殻は低い円錐形で殻底は丸くやや膨らむ。螺塔はなだらかで縫合の括れは弱い。体層はよく膨らみ周縁部には弱い角がある。殻口外唇は肥厚し外側に反転。コベソと称するが臍孔はない。殻表は滑らかで微細な成長脈と螺状脈が交差し細かい絹目状となる。殻質は薄く半透明で軟体部が透き通って見える。殻色は淡い褐色～飴色で周縁部には黒褐色の色帯が入る。無帯型はほとんど出現しない。雌雄同体，卵性で恋矢はない。過去に米子城址では亜種ヘソアキコベソマイマイ *S. (S.) m. euomphala* (Pilsbry & Hirase, 1908) の報告がある。臍孔が開くためサンインコベソマイマイと同種との見解もあるが，分子解析等，今後の検討が必要。社寺林や標高800 mまでの里山の広葉樹の樹幹の低部や落葉下に生息。
- 分布** 県内：鳥取市用瀬町，米子市久米町，智頭町。県外：本州(栃木県・群馬県以西～山口県)，四国，九州。
- 保護上の留意点**：サンインコベソマイマイと同所的に生息する千代川中流域の産地は，学術的にも貴重。生息場所の自然林等の環境保全が必要。
- 文献**：30, 32, 47, 65, 75。

執筆者：高田良二

サンインコベソマイマイ 柄眼目ナンバンマイマイ科

Satsuma omphalodes (Pilsbry, 1901)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



鳥取市大塚産／撮影：鈴木 武

■**選定理由**：中国地方周辺 of 自然林の残る限られた環境のみに分布し、生息地やそれぞれの産出数も少ない。丘陵地や山間部など自然環境の悪化で個体群が消滅する危険性がある。

■**特徴**：殻高約 26 mm，殻径約 40 mm。殻はやや低平な円錐形。螺塔は低くなだらかで縫合の括れは弱い。体層はよく膨らみ周縁角は顕著で角部に黒褐色の色帯が入る。殻口外唇は肥厚し外側に反転する。殻底はやや扁平で臍孔は通常は深く開く。殻表は滑らかで微細な成長脈と螺状脈が交差し艶消状となる。殻色は乳白色～クリーム色で本種は白系の個体が多い。軟体部は淡いベージュ地に茶褐色の斑点が散在。大触角は長く胴体はやや細長い。雌雄同体，卵性で恋矢はない。丘陵地や山間部など自然環境の残る広葉樹の樹幹の低い場所や落ち葉の下，標高 1500 m までの山林に生息する。

■**分布** 県内：西部，中部，東部域。県外：本州中国地方（兵庫県以西～島根県・広島県）。

■**保護上の留意点**：自然環境が良好な丘陵地や山間部などの自然林をおもな生息地とするため，これら山林の保全が必要。

■**文献**：2, 32, 47, 65, 75.

執筆：高田良二

アワジオトメマイマイ 柄眼目オナジマイマイ科

Aegista sp.

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



撮影：増田 修

■**選定理由**：確認例は 1 例のみで，現状不明。生息状況の調査が必要。

■**特徴**：殻高約 8 mm，殻径約 12 mm。殻は螺層の多い算盤玉形，螺塔はやや高く殻底は丸く膨らむ。螺管は太く体層周縁には弱い角がある。殻口は薄質で外唇はラップ状に反転する。臍孔は深く小さい。殻表は平滑で鈍い艶感のある薄い殻皮に覆われる。殻色は透明感のある淡褐色で縫合下は帯状に淡い白色に染まる。雌雄同体，卵性で細い恋矢をもつ。近縁種のオトメマイマイに殻形態が似るが，オトメマイマイは殻がやや大型で，殻色が乳白色の白系色であることや，縫合下が白色に染まらない等より区別できる。本種の属名は，近年 *Trishoplita* より *Aegista* に変更された。その際，種小名が同属の *A. awajiensis* ジタロウマイマイと重複したため，本種は新参二次ホモニムとなり，現在，学名がない状態である。古民家周辺の雑木林や社寺林の低木や下草の葉の裏などに生息する。

■**分布** 県内：三朝町。県外：本州（愛知県・岐阜県以西～鳥取県・岡山県），四国。

■**保護上の留意点**：近畿地方では場所により多産するため普通種として扱われるが，県下では 1 カ所のみで生息地の自然林や社叢の保全が必要。

■**文献**：2, 13, 14, 32.

執筆：高田良二

コウダカシロマイマイ 柄眼目オナジマイマイ科

Aegista cretacea (Gude, 1900)

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



撮影：谷岡 浩

■**選定理由**：県下ではおもに西部域に分布し，中部以東では断続的。東部域は日本海側の東限。分布等に関してはさらなる調査が必要である。

■**特徴**：殻高約 18 mm，殻径約 20 mm。殻は螺塔の高い円錐形，殻は厚質で殻底は丸く膨らむ。螺塔は多旋でやや低い個体も出現する。周縁には角がなく体層は良く膨らむ。殻口はやや厚く外側にラップ状に反転する。殻底は膨らみ深く狭い臍孔がある。殻表は平滑で淡色で薄く剥げ易い殻皮がある。表面は木目細かな斜位の成長脈が密に入る。殻色は白色～乳白色の白系色。体層の下部に幅広い焦褐色の色帯が 1 本入る (0030 型)。稀に無帯 (0000 型) や臍孔部が褐色に染まる個体も出現する。本種は恋矢が細長く相手の胴体を突き抜くこともある。雌雄同体，卵性。丘陵地～標高 1000 m までの山間部に広葉樹林帯や雑木林に生息。半樹上性でアオキなどの低木の葉の裏にいる。

■**分布** 県内：西部，中部，東部域。タイプ産地は鳥取県日南町印賀。県外：本州（兵庫県以西～山口県），四国（愛媛県）。

■**保護上の留意点**：自然環境の良好な丘陵地や山間部等，自然林や社叢などの樹上に生息しているため，伐採の監理など森林環境の保全が必要。

■**文献**：2, 19, 32, 41, 75.

執筆：高田良二

コウロマイマイ 柄眼目オナジマイマイ科
Euhadra latispira yagurai Kuroda & Habe, 1949

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



鳥取市大塚産 / 撮影：鈴木 武

- 選定理由：分布域が限定され、個体数も減少傾向である。
- 特徴：殻高約 35 mm，殻径約 45 mm。螺管は太く体層周縁は丸く膨らむ。殻口外唇はラップ状に反転。殻表はやや不規則な成長脈が密に入り、殻面は平滑で木目細かく鈍い艶感のある薄い殻皮に覆われる。臍孔はやや広く浅い。殻色は乳白色～淡い黄土色，色帯は周縁部と臍孔付近に黒褐色の色帯が入る 0204 型や色帯の入らない無帯型 0000 型が大半を占める。智頭町には 1030 型や 0230 型などの珍しい表現型が出現する。また、岡山県や兵庫県には 1230 型や 1234 型などの多色帯型で殻口が薄紅色をした小型で好樹上性のヒメコウロマイマイ（高田仮称：岡山県美作市白水の滝 1982.9. の矮小個体群に基づく）が分水嶺より南の地域に生息する。
- 分布 県内：鳥取県東部域～三朝町，日野町。丘陵地～山間部など標高 1000 m までの二次林と自然林。県外：本州（兵庫県以西～鳥取県・岡山県）。
- 保護上の留意点：里地・里山に生息する本種は宅地造成などで近年減少が目立つ。里地・里山や社叢などの保全が重要。
- 文献：2, 20, 64, 65, 70, 77.

執筆：高田良二・鈴木 武

セトウチマイマイ 柄眼目オナジマイマイ科
Euhadra subnimbosa (Kobelt, 1879)

鳥取県：その他の重要種 (OT)
環境省：—



鳥取市赤子谷 2016.10.1 / 撮影：鈴木 武

- 選定理由：鳥取県は本種の日本海側での分布のほぼ東限にあたり産地も限定的である。
- 特徴：殻高約 22 mm，殻径約 30 mm。殻は底の丸い円錐形。螺塔はやや高く多旋で縫合は括れる。螺管は太く体層周縁は丸く膨らむ。殻口外唇はラップ状に反転。殻表はやや不規則で荒い成長脈が密に入り、艶のない薄い殻皮で覆われる。殻底は丸く臍孔は狭く深い。殻色は乳白色や淡い藁色，黄土色等で，明色の虎斑模様が成長脈に沿って散在する。殻表の色帯は茶褐色で 0204 型や 0234 型，無帯型 0000 型などさまざまなパターンが現われる。同所的に生息するコウロマイマイとは軟体部の色彩や臍孔の広さなどが異なるため区別できる。古民家や廃屋付近の雑木林，社寺林，平地～里山の自然林など標高 400 m までの林床や樹幹に生息。
- 分布 県内：鳥取市，智頭町，三朝町，倉吉市。県外：本州（兵庫県以西～山口県），四国，九州。
- 保護上の留意点：県内での殻の色斑多型の地理的パターンの把握が望まれる。コウロマイマイと同じく減少気味なので生息地の里地・里山の保全が重要。
- 文献：20, 64, 65, 87, 88.

執筆：高田良二・鈴木 武

クチベニマイマイ 柄眼目オナジマイマイ科
Euhadra amaliae (Kobelt, 1875)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



撮影：谷岡 浩

- 選定理由：おもに県東部域に分布し，西に行くほど産地が激減し気高町が分布の西限。生息地が限定され，個体数も少ない。
- 特徴：殻高約 25 mm，殻径約 35 mm。殻は殻底の丸い円錐形。螺塔は高く多旋で各螺層の縫合は括れる。螺管は太く体層肩部は丸くやや張出す。殻口外唇はラップ状に強く反転する。殻表は微細な成長脈と螺状脈が密に交差し，表面は鈍い艶感のある絹目状の殻皮で覆われる。殻底は丸く臍孔は広くやや深い。殻色は乳白色～淡いベージュ色。体層部の色帯は黒褐色で (0234 型) が多く，まれに無帯型や (0030 型) など出現する。殻口周辺は桃色～紅紫色に美しく彩色され，これがクチベニマイマイの和名の由来となる。民家付近の雑木林や社寺林，平地～山間部にかけて標高 500 m までの自然林に生息する。好樹上性で活動期は雑木林の樹幹で暮らす。
- 分布 県内：鳥取市（河原町，気高町，用瀬町），岩美町。気高町睦逢が本種の西限分布。県外：本州（神奈川県以西～兵庫県・鳥取県）。
- 保護上の留意点：民家の裏山や社寺林，自然が残る里山周辺の雑木林を主な棲処とするため，これら自然林の保全が必要。
- 文献：20, 30, 39, 64, 76.

執筆：高田良二・鈴木 武

ササノハガイ イシガイ目イシガイ科

Lanceolaria oxyrhyncha (Martens, 1861)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市用水路 2021.10.3 / 撮影：福本一彦

■選定理由：県内の生息確認地は限定され、個体数も少ないため。

■特徴：殻は極端に細長く、鋭く尖るナイフ型。殻長は最大 150 mm ほどになる。湖沼や農業用水路の砂礫底から砂泥底に生息。本種は RDB とっとり改訂版ではトンガリササノハガイとされていたが（谷岡 2012）、その後の研究により九州の集団をキュウシュウササノハガイ *L. kihirai*、それ以外の琵琶湖を含む本州と四国の集団はササノハガイ *L. oxyrhyncha* に分類された（Kondo & Hattori 2019）ため、それに準じた。

■分布 県内：鳥取市 県外：愛知県以西の本州，四国。

■保護上の留意点：圃場整備や河川改修等による生息環境の悪化防止，定期的な泥上げによる底質環境の維持，安定した水量の確保，ヨシノボリ属等幼生宿主の生息環境維持が必要。

■文献：25, 26, 40, 78.

執筆者：福本一彦

イシガイ イシガイ目イシガイ科

Nodularia douglasiae (Gary in Griffith & Pidgeon, 1833)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



多鯰ヶ池 2010.11.26 / 撮影：福本一彦

■選定理由：生息地が限られるため。

■特徴：池の緩傾斜護岸域や用水路の砂礫，砂泥底に生息。殻は長卵形で膨らむ。主な繁殖期は初夏。1繁殖期に複数回妊卵する。殻長約 3 cm で成熟。幼生はオイカワ，ヨシノボリ属等の鰓に寄生。底に潜り込んでいることは少ない。移動能力は高いが，乾燥に弱い。夏から秋にかけて急激に成長するが，冬季は成長量が少ない。

■分布 県内：多鯰ヶ池，鳥取市桂見，摩尼川水系，野坂川水系。 県外：富山，京都，三重以西の西日本，九州；ロシア，中国，韓国など。

■保護上の留意点：圃場整備や河川改修等による生息環境悪化の防止，安定した流量の確保，定期的な泥上げによる底質環境の維持，オオクチバス，ブルーギルを駆除し，幼生の宿主であるヨシノボリ属等の生息環境を維持する必要がある。

■文献：10, 12, 24, 25, 33.

執筆者：福本一彦

ヨコハマシジラガイ イシガイ目イシガイ科

Inversiunio jokohamensis (Ihering, 1893)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



鳥取市福井川 2010.3.20 / 撮影：福本一彦

■選定理由：生息地が限定され，個体数も少ないため。

■特徴：殻頂付近に顆粒状の模様があり，後背縁には不明瞭な放射肋がある。底質が砂礫で流速の速い農業用水路に生息。おもな繁殖期は秋。幼生はヨシノボリ属，カワムツ，ヌマチチブの鰓に寄生。本種は RDB とっとり改訂版でニセマツカサガイとされていた（福本 2012）生息確認地点の一部個体が，その後の遺伝子解析によりヨコハマシジラガイであることが判明したため（瀬尾 2019），それに準じた。

■分布 県内：岩美町本庄，鳥取市気高。 県外：北海道，本州（鳥取県が南限）。

■保護上の留意点：圃場整備や河川改修，護岸工事等による生息環境悪化の防止，安定した流量の確保，定期的な泥上げによる底質環境の維持，幼生の宿主であるヨシノボリ属等の生息環境の維持が必要。

■文献：7, 25, 69.

執筆者：福本一彦

マツカサガイ広域分布種 イシガイ目イシガイ科
Pronodularia sp.1

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



北栄町用水路 2010.12.7 / 撮影：福本一彦

■**選定理由**：県内の生息地が限られ、かつ生息環境の悪化が懸念されるため。

■**特徴**：殻表の逆V字状の彫刻、後背縁の放射肋が顕著。ため池を水源とし、底質が砂礫で流速の速い農業用水路等に生息。雌雄異体で卵生。繁殖期は夏。雌の入水管から取り込まれた精子と卵が受精し、幼生となった後、水中に放出される。幼生はおもに日中に流下し、ヨシノボリ属、ドジョウ等の鰓や鰭に寄生。1-2週間後に稚貝に変態し魚体から離れ、底生生活に移行。

■**分布** 県内：鳥取市玉津、岩美町大谷、北栄町、大山町御来屋、妻木、米子市淀江、福万、南部町。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：年間を通じた安定した水流量の確保、定期的な泥上げ、下流域へ押し流され移動阻害された個体の上流域への移動、幼生の好適宿主であるトウヨシノボリ等の生息環境の維持が必要。

■**文献**：6, 17, 25, 69.

執筆者：福本一彦

カラスガイ イシガイ目イシガイ科
Cristaria plicata (Leach, 1814)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧IB類 (EN)



多鯰ヶ池 2011.9.10 / 撮影：福本一彦

■**選定理由**：生息地が限定され、個体数も少ないため。主要な生息地の1つであった湖山池では2012年以降確認されておらず絶滅。

■**特徴**：殻は楕円形で平たく、殻長は20cmを超える大型の二枚貝。殻頂の両側背縁に翼状突起があり、とくに幼貝では後背縁の翼状突起が発達するが、成貝では目立たなくなり、付け根にしわ状の褶曲がある。池の軟泥域に生息。繁殖期は晩秋から早春。幼生の宿主はヨシノボリ属、ウキゴリ属等で、鰭や鰓に寄生する。

■**分布** 県内：多鯰ヶ池ほか。県外：北海道南部、本州；中国、ロシア、ベトナム等。

■**保護上の留意点**：多鯰ヶ池では外来魚が優占し、本種の繁殖成功率の低下が懸念されることから、継続的な外来魚駆除が必要。また、他水域では泥流し等、底質環境の改善が必要であり、再生産可能な環境を復元、創出していく必要がある。

■**特記事項**：鳥取県特定稀少野生動物。

■**文献**：10, 25, 59, 82, 83.

執筆者：福本一彦

ヌマガイ イシガイ目イシガイ科
Sinanodonta lauta (Martens, 1877)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



多鯰ヶ池 2010.11.26 / 撮影：福本一彦

■**選定理由**：生息地が限られるため。

■**特徴**：池や用水路の流れの緩やかな泥域、砂泥域に生息。殻は卵形で膨らみが強い。擬主歯も後側歯もない。春～初夏にかけて妊卵し、幼生は夏までに放出される。雌は1繁殖期に1回しか妊卵しない。殻長約5cmで成熟。幼生はヨシノボリ属やオイカワ等の鰓や鰭に寄生する。

■**分布** 県内：多鯰ヶ池、鳥取市水道谷川水系、洞ノ川の各水系、鳥取市上町、本高、古郡家の堤や用水路など。県外：北海道、本州、四国、九州；朝鮮半島。

■**保護上の留意点**：圃場整備や河川改修等による生息環境悪化防止、定期的な泥上げ、池干しによる底質環境の維持、オオクチバス、ブルーギルの侵入防止および駆除、ヨシノボリ属等幼生宿主の生息環境の維持が必要。

■**文献**：5, 10, 25, 27, 71.

執筆者：福本一彦

キタノタガイ イシガイ目イシガイ科

Beringiana gosannensis Sano, Hattori & Kondo in Lopes-Lima et al., 2020

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



鳥取市高住 2013.2.1 / 撮影：福本一彦

■選定理由：生息地の縮小ならびに個体数の減少による。

■特徴：池や用水路の流れの緩やかな泥域、砂泥域に生息。殻は長卵形で膨らみが弱い。妊卵期および幼生放出期はほぼ1年中で、雌は1繁殖期に多回妊卵する。殻長約5 cmで成熟。幼生はヨシノボリ属やオイカワ等の鰓や鰭に寄生する。本種はRDBとっとり改訂版でタガイとされていたが(福本・谷岡 2012)、その後の研究により新たにキタノタガイと分類されたため(Lopes-Lima et al., 2020)、それに準じた。

■分布 県内：岩美町大谷、鳥取市高住、同市玉津、湯梨浜町引地等。県外：本州の日本海側。

■保護上の留意点：定期的な泥上げや池干しによる底質環境の維持、ヨシノボリ属等の生息環境の維持、安定した水量や水質の確保、圃場整備や河川改修による生息環境悪化防止。

■文献：8, 25, 27, 33, 71.

執筆：福本一彦

カタドブガイ イシガイ目イシガイ科

Buldowskia iwakawai (Suzuki, 1939)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



岩美町本庄 2011.5.16 / 撮影：福本一彦

■選定理由：生息地が局所的で、生息環境の悪化が認められるため。

■特徴：用水路や池の泥域、砂泥域に生息する。殻は薄く、楕円形で膨らむ。殻頂が背縁中央に位置する。背縁と腹縁はほぼ平行。殻長約5 cmで成熟する。繁殖期は秋～初春。幼生は冬～春に放出される。1繁殖期に1回しか妊卵しない。幼生はヨシノボリ属の鰓や鰭に寄生する。本種はRDBとっとり改訂版でフネドブガイとされていたが(福本・谷岡 2012)、その後の研究により新たにカタドブガイと分類されたため(Lopes-Lima et al., 2020)、それに準じた。

■分布 県内：岩美町本庄。県外：北海道、東北、北陸、山陰の日本海側；樺太南部、朝鮮半島の一部。

■保護上の留意点：生息地においては定期的な泥上げによる底質環境の維持、宿主となるヨシノボリ属の生息環境維持、安定した水量や水質の確保が必要。

■文献：9, 11, 25, 33.

執筆：福本一彦

ヤマトシジミ マルスダレガイ目シジミ科

Corbicula japonica Prime, 1864

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



標本 東郷池 2010.11.16 / 撮影：福本一彦

■選定理由：本種が再生産可能な生息場所が限られるため。

■特徴：汽水域に生息。生息密度は溶存酸素量が高く、シルトや全硫化物量が少ない水深の浅い地点で高い。入水管から水ごと吸い込み、珪藻や有機物を鰓で濾して摂餌する。雌雄異体で卵生。産卵期は7-9月。体外に放卵、放精し、水中で受精するが、卵は浸透圧の関係により真水でも海水でも受精できない。産卵-浮遊幼生期には5 psu程度の塩分が必要。浮遊幼生から稚貝に変態して砂礫に着底し、底生生活に移行する。成貝は水温が低下する冬期は深く潜砂し成長がほぼ停滞するが、春以降は底表面に移動し成長量も増す。

■分布 県内：東郷池、橋津川、河内川、千代川、(湖山池：東郷池からの移植個体)。県外：北海道から九州、朝鮮半島。

■保護上の留意点：産卵-浮遊幼生期に好適塩分環境を維持することが重要。また、夏場の貧酸素対策や生息域保全策として浅場造成や覆砂が必要。

■文献：34, 37, 63, 81, 83.

執筆：福本一彦

マシジミ マルスダレガイ目シジミ科
Corbicula leana Prime, 1864

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：絶滅危惧II類 (VU)



標本 鳥取市水道谷川 2009.5.8 谷岡 浩採集
／撮影：福本一彦

■**選定理由**：台湾シジミの生息域拡大に伴う生息地縮小のため。
■**特徴**：用水路の砂礫底に生息。雌雄同体で卵胎生。自家受精するが、第一減数分裂で卵染色体はすべて極体として放出され、精子核由来の染色体のみで発生が進む。幼生は鰓葉内で保育され、放出される。繁殖期は春～秋。殻長約 11 mm で成熟。マシジミ、台湾シジミ（黄色型、緑色型）の mtDNA 分析では 2 系統が確認され、両種共通のハプロタイプが認められている。両種の形態と mtDNA の系統との間に対応がみられず、遺伝的に識別不可能なことから、両種を含む雌雄同体シジミについては分類学的再検討が必要とされている。

■**分布** 県内：鳥取市水道谷川，同市摩尼川，同市水谷川の各水系，米子市淀江町（形態的に本種と同定された個体が生息していた地点）など。県外：東北から九州。

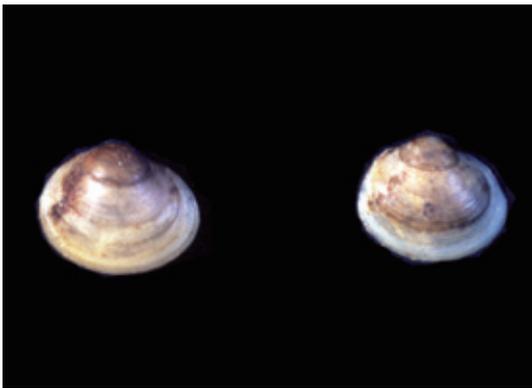
■**保護上の留意点**：台湾シジミが県下 6 水系 7 地点で確認されており、これ以上の分布域拡大防止のため、シジミ類の移植放流や投棄は慎むべき。

■**文献**：4, 15, 40, 60, 89.

執筆：福本一彦

マメシジミ マルスダレガイ目マメシジミ科
Pisidium japonicum (Pilsbry & Hirase, 1908)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：—



標本 大山 1963.7.29 生駒採集 鳥取県立博物館所蔵／
撮影：川上 靖

■**選定理由**：県内では大山の 9 合目の梵天池と江府町鏡ヶ成の小川の冷水域で確認記録がある。その後の消息は不明だが、危機的な状況にあると推定されることから前回と同じランクとした。

■**特徴**：殻長約 5 mm の灰白色の薄い殻をもつシジミ型の小型の二枚貝で、殻幅は膨らみ、微細な成長脈がある。約 20 の種や亜種知られているが分類は確立されていない。梵天池の貝は東正雄氏により、ニッコウマメシジミ *P. (Eupisidium) cinereum* Mori 1938 とされた。この池は 1960 年代に消滅したと思われたが、1975 年 6 月中島良典氏により、梵天池と思われる池で 3 個体が確認されたがその後の消息は不明。鏡ヶ成では 1980 年に南部久男氏が標高 930 m の小川で採集された 1 個体の標本が富山市科学文化センターに保管されている。

■**分布** 県内：大山（9 合目梵天池）。鏡ヶ成。県外：本州。

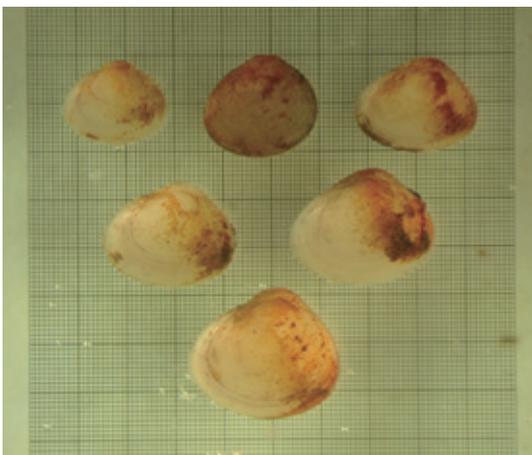
■**保護上の留意点**：大山の 9 合目の梵天池の存続状況，鏡ヶ成，および本県全域での生息地調査が急務である。

■**文献**：3, 40.

執筆：福本一彦

ウエジマメシジミ マルスダレガイ目マメシジミ科
Pisidium (Odhneripisidium) uejii Mori, 1938

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



日南町三吉 2014.6.29 福本一彦採集／撮影：家山博史

■**選定理由**：調査不足であるものの、県内の生息確認地は 7 カ所と局所的なため。

■**特徴**：殻長約 3.0 mm に成長。殻は乳白色から黄白色。殻表の線条はやや粗く規則的。殻頂は幅広で突出。膨らみが強い。卵胎生で稚貝を保有する。外鰓がない。

■**分布** 県内：岩美町大谷，鳥取市雨滝，同市青谷楠根，八頭町中，岩美町大谷，倉吉市葵町，日南町美吉。県外：兵庫県北部。

■**保護上の留意点**：本種は湧水のある閉鎖された環境に生息していることが多く、湧水環境の維持が重要。

執筆：福本一彦

■参考文献 陸産・淡水産貝類

1. 阿部近一 (1981) 徳島県陸産および淡水産貝類誌. 教育出版センター (徳島), 88 pp. + 10 photos + 10 pls.
2. 東 正雄 (1995) 原色日本陸産貝類図鑑 (増補改訂版), 保育社 (大阪), 343 pp. + 80pls.
3. 東 正雄 (2001) 伯耆大山生物誌. 甲陽学院生物部 OB 会東生物研究所, 642 pp.
4. 藤原次男 (1977) マシジミの稚貝の成長について. *Venus*, 36: 19-24.
5. 福原修一・田部雅昭・近藤高貴・河村章人 (1994) 淡水二枚貝ドブガイに見られる遺伝的 2 型の繁殖期. *Venus*, 53: 37-42.
6. 福本一彦 (2008) 鳥取県中部地区の農業用水路におけるマツカサガイの生息環境およびグロキディウム幼生の寄生実態. *山陰自然史研究*, 4: 12-16.
7. 福本一彦 (2012) ニセマツカサガイ. p. 157. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
8. 福本一彦・谷岡 浩 (2012) タガイ. p. 158. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
9. 福本一彦・谷岡 浩 (2012) フネドブガイ. p. 159. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
10. 福本一彦・谷岡 浩 (2013) 鳥取県多鯰ヶ池におけるイシガイ類の生息状況. *山陰自然史研究*, 9: 1-5.
11. 福本一彦・谷岡 浩 (2013) 鳥取県岩美町の農業用水路におけるフネドブガイの生息状況. *山陰自然史研究*, 9: 13-14.
12. 福本一彦・三上裕加・檜垣英司 (2010) 鳥取県多鯰ヶ池における魚類相. *山陰自然史研究*, 5: 15-21.
13. 波部忠重 (1958) 楽しい理科教室 (46) かたつむりの研究. 恒星社厚生閣 (東京), 87 pp.
14. 肥後俊一・後藤芳央 (1993) 日本及び周辺地域産軟体動物総目録. エル貝類出版局 (大阪), 603+13+148 pp.
15. 池末 弥・山根伸一 (1977) マシジミの生態に関する研究 - III. 周年性産卵と生殖巣内自家受精について. *日本水産学会誌*, 43: 1139-1146.
16. 板垣 博・今井源四郎 (1960) 北海道におけるモノアラガイの種類と分布. *ちりばたん*, 1-2: 41-42.
17. 伊藤寿茂・丸山 隆 (2004) マツカサガイのグロキディウム幼生の流下生態. *日本生態学会誌*, 54: 85-94.
18. 環境省 (2014) レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 6 貝類. 環境省 (東京), 455 pp.
19. 河本卓介・田邊澄生 (1956) 山口県産貝類目録. 山口県立山口博物館, 170 pp.
20. 川名美佐男 (2007) かたつむりの世界. 近未来社 (名古屋), 332 pp.
21. 紀平 肇・松田征也 (1990) 琵琶湖淀川淡水貝類. たたら書房 (米子市), 131 pp.
22. 紀平 肇・松田征也・内山りゅう (2003) 日本産淡水貝類図鑑 1. 琵琶湖・淀川産の淡水貝類. 株式会社ピーシーズ (東京), 160 pp.
23. 清末忠人・谷岡 浩・石坂 元・中島良典 (1976) 鳥取県の陸産貝類. 鳥取県立博物館研究報告, 13: 1-34.
24. Kondo, T. (1992) Population density and growth of *Unio douglasiae* and *Lanceolaria grayana* (Bivalvia: Unionidae) in a small creek at Kyoto. *Venus*, 51: 219-224.
25. 近藤高貴 (2008) 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会 (東京) 69 pp.
26. Kondo, T. & Hattori, A. (2019) A new species of the genus *Lanceolaria* (Bivalvia: Unionidae) from Japan. *Venus*, 78: 27-31.
27. 近藤高貴・田部雅昭・福原修一 (2006) ドブガイに見られる遺伝的 2 型のグロキディウム幼生の形態. *Venus*, 65: 241-245.
28. 黒田徳米 (1962) 日本並びに隣接地域産ミズゴマツボ類に就いて. *Venus*, 22-1: 59-69.
29. 黒田徳米 (1963) 日本非海産貝類目録. 日本貝類学会, 71 pp.
30. 黒田徳米・波部忠重 (1949) 貝類研究叢書 I かたつむり. 三明社 (東京), 129 pp. + 1 pl.
31. 黒田徳米・瀧 巖 (1944) 中国地方の新陸産貝類, キセルガイ類. *Venus*, 13(5-8): 228-236.
32. 黒住耐二・一澤 圭・川上 靖 (2011) 鳥取県立博物館に寄贈された石坂元貝類コレクション非海産腹足類. 鳥取県立博物館研究報告, 48: 119-143.
33. Lopes-Lima, M., Hattori, A., Kondo, T., Lee, J.H., Kim, S.K., Shirai, A., Hayashi, H., Usui, T., Sakuma, K., Toriya, T., Sunamura, Y., Ishikawa, H., Hoshino, N., Kusano, Y., Kumaki, H., Utsugi, Y., Yabe, S., Yoshinari, Y., Hiruma, H., Tanaka, A., Sao, K., Ueda, T., Sano, I., Miyazaki, J., Goncalves, D.V., Klishko, O.K., Konopleva, E.S., Vikhrev, I.V., Kondakov, A.V., Gofarov, M.Y., Bolotov, I.N., Sayenko, E.M., Soroka, M., Zieritz, A., Bogan, A.E. & Froufe, E. (2020) Freshwater mussels (Bivalvia: Unionidae) from the rising sun (Far East Asia): Phylogeny, systematics, and distribution. *Molecular phylogenetics and Evolution*, 146, doi:https://doi.org/10.1016/j.ympev.2020.106755.
34. 丸 邦義・山崎 真・中井純子 (2005) ヤマトシジミの産卵好適塩分. *水産増殖*, 53: 251-255.
35. 増田 修 (1993) 兵庫県産陸水生貝類 I. *兵庫陸水生物*, 43: 17-23.
36. 増田 修 (1995) 兵庫県産陸水生貝類 IV. *兵庫陸水生物*, 45: 36-45.
37. 増田 修 (2002) ヤマトシジミ. p. 186. In: レッドデータブックとっとり (動物).
38. 増田 修 (2005) モノアラガイ. 日本の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブック 6 陸・淡水産貝類. 自然環境研究センター, 320 pp.
39. 増田 修 (2014) 兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック 貝類・その他無脊椎動物. 公益財団法人ひょうご環境創造協会, 128 pp.
40. 増田 修・内山りゅう (2004) 日本産淡水貝類図鑑 2. 汽水域を含む全国の淡水貝類. 株式会社ピーシーズ (東京), 240 pp.
41. 増野和幸・鳥越兼治 (2012) キュウシュウシロマイマイ 2 亜種の軟体部形質の比較. *Venus*, 70(1-4): 25-40.
42. 湊 宏 (1973) オオコウラナメクジについて. *ちりばたん*, 7(5): 105-106.
43. 湊 宏 (1974) オキギセルとモリヤギセル. *山口の自然*, 4(1): 8-11.
44. 湊 宏 (1980) 日本産陸棲貝類の分布資料 2, オオギセル. *南紀生物*, 22(1): 49-54.
45. 湊 宏 (1980) ヤマメタニシその形態・生態・分布. *南紀生物*, 22-2: 77-79.
46. 湊 宏 (1981) ヤマコウラナメクジの新産地. *ちりば*

- たん, 12(4): 90.
47. 湊 宏 (1983) コベソマイマイとその近縁種について. 南紀生物, 25: 28-33.
 48. 湊 宏 (1987) 鳥取県で採集されたクビレイトウムシオイガイ (新亜種). *Venus*, 46: 75-78.
 49. 湊 宏 (1994) 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. *Venus, Suppl. 2*: 212 pp + 6 tables + 74pls. 日本貝類学会.
 50. 湊 宏 (2005) クビレイトウムシオイガイ. p. 59. In 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 (陸・淡水産貝類). 日本環境研究センター (東京).
 51. 湊 宏 (2010) ヒョットコイトウムシオイガイ. In: 環境省 (編) 改訂レッドリスト 付属説明資料 貝類, p. 2. 環境省自然環境局野生生物課 (東京).
 52. 湊 宏 (2011) 陸産貝類研究備忘録 (7), イトウムシオイガイ種群とクビレイトウムシオイガイ種群. かいなかま, 45 (1): 23-34.
 53. 湊 宏 (2012) ヒョットコイトウムシオイガイ. p. 147 In: レッドデータブックとっとり改訂版.
 54. Minato, H. (2015) *Diplommatina (Sinica) nakashimai*, a new species of the family Diplomatinae (Gastropoda: Cyclophoridae) from the Chugoku Region, Honshu, Japan. *Venus*, 73 (1-2): 75-78.
 55. 湊 宏 (2015) 中国地方産ゴマガイ科貝類の新種ダイオウゴマガイ. *Venus*, 73(1/2): 75-78.
 56. 湊 宏・石坂 元 (1989) 知床半島で見つかったクリイロキセルガイモドキの記録とその分布. ちりぼたん, 20(1/2): 15-18.
 57. 湊 宏・中島良典 (2014) 大山周辺地域 (鳥取県・岡山県) を中心とするナガタネガイの分布西限記録とその生息状況. ちりぼたん, 45-2: 72-77.
 58. Minato, H & Yano, S. (2000) *Chamalycaeus (Sigmacharax) nakashimai ditacaues* n. subsp. (Alycaeidae) from the eastern region of Tottori Pref., western Japan. *Venus*, 59 (2): 129-133.
 59. 宮本 康・福本一彦・畠山恵介・森 明寛・前田晃宏・近藤高貴 (2015) 鳥取県における特定希少野生動物カラスガイ *Cristaria plicata* 個体群の現状: 幼生と宿主魚類の関係に着目して. 保全生態学研究, 20: 59-69.
 60. 宮崎一老 (1936) シジミの発生に就いて. 日本水産学会誌, 5: 249-254.
 61. 守谷茂樹 (2012) 愛知に分布するキバサナギガイ類 2 種の生息環境について. 名古屋貝類談話会会報かきつばた, 37: 50-51.
 62. 中村幹雄 (2000) ヤマトシジミの生態学的特性. pp. 1-17. In: 中村幹雄 (編) 日本のシジミ漁業 その現状と問題点. たたら書房 (米子), 266 pp.
 63. 西 浩孝・曾田貞滋 (2005) ミトコンドリア DNA 分析に基づく中国地方のマイマイ属の系統地理学的研究. ホシザキグリーン財団研究報告, 8: 185-196.
 64. 西 浩孝・武田晋一 (2015) カタツムリハンドブック. 文一総合出版 (東京), 126 pp.
 65. Ondo, Y. & Nakamoto, Y. (1964) Ecological studies on the natural populations of a snail, *Clithon retropictus* (Martens). *Physiology and Ecology*, 12: 45-54.
 66. 大山 桂 (1944) 中支那のタニシについて. 上海自然科学研究所彙報, 14-1: 44-48.
 67. Pally-Gergely, B., Sajan, S., Triparhy, B., Meng, K., Asami, T. & Yonarhan D. Ablett, Y. D. (2020) Genus-level revision of the Alycaeidae (Gastropoda, Cyclophoridae), with an annotated species catalogue. *Zookeys*, 981: 1-220.
 68. 瀬尾友樹 (2019) 日本産イシガイ科貝類の保全に向けた分類および遺伝的多様性に関する研究. 近畿大学大学院農学研究科博士論文 111pp.
 69. 鈴木 武・宮井卓人・高田良二 (2017) コウロマイマイの殻の色帯の地理的変異. 兵庫生物, 15-3: 141-146.
 70. 田部雅昭・福原修一・長田芳和 (1994) 淡水二枚貝ドブガイに見られる遺伝的 2 型. *Venus*, 53: 29-35.
 71. 谷岡 浩 (1993) アズキガイ. pp. 226-227. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
 72. 谷岡 浩 (1993) エチゴキセルガイモドキ. p. 228-229. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
 73. 谷岡 浩 (1993) パツラマイマイ. p. 230. + オオコウラナメクジ. p. 231. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
 74. 谷岡 浩 (1993) サンインコベソマイマイ. pp. 232-233. + コウダカシロマイマイ. pp. 234-235. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
 75. 谷岡 浩 (1993) コウロマイマイ. pp. 236-237. + クチベニマイマイ・サンインマイマイ. pp. 242-243. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
 76. 谷岡 浩 (1993) コウロマイマイ. pp. 236-237. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
 77. 谷岡 浩 (2012) トンガリササノハガイ. p. 156. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
 78. 谷岡 浩・宇野 明 (2012) ミヤコムシオイ. p. 147. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
 79. 谷岡 浩・宇野 明 (2012) ヤマメタニシ. P. 149. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
 80. 鳥取県栽培漁業センター (2009) 魚の棲む豊かな湖沼河川再生調査. 平成 20 年度鳥取県栽培漁業センター成果報告集: 20-23.
 81. 鳥取県栽培漁業センター (2014) 17. 湖山池イシガイ類調査. 平成 24 年度 鳥取県栽培漁業センター成果報告. <https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/972835/no17ishigai.pdf>
 82. 鳥取県・鳥取市 (2020) 第 3 章 3-3 底生動物. 汽水化に伴う湖山池の環境等の変化に関する調査報告書. 50-55.
 83. 和田恵次 (2018) 汽水域に生きる巻貝たち. その生態研究史と保全. 東海大学出版部 (東京), 144 pp.
 84. Wang, M. & Ueshima, R. (2017) Molecular phylogeny, frequent parallel evolution and new system of Japanese clausiliid land snails (Gastropoda: Stylomatophora). *Zoological Journal of the Linnean Society*, 181: 795-845.
 85. 株式会社ウエスコ (2005) 日野川水系魚介類・底生動物調査業務 (底生動物) 報告書.
 86. 株式会社ウエスコ (2018) 天神川魚介類・底生動物調査業務 報告書 (底生動物).
 87. 矢倉和三郎 (1937) ハリママイマイの分布とセトウチマイマイの推移的研究. 兵庫県博物学会会誌, 14: 15-22.
 88. 矢倉和三郎 (1938) 日本産陸貝類綱要 (5) 蝸牛類之部. 兵庫県博物学会会誌, 16: 48-55.
 89. 山田充哉・石橋 亮・河村功一・古丸 明 (2010) ミトコンドリア DNA のチトクローム b 塩基配列および形態から見た日本に分布するマシジミ, タイワンシジミの類縁関係. 日本水産学会誌, 76: 926-932.